

梅にも生年月日があり、それがあの緻密な
年輪のはじまりである筈だが
どうしてそれは生まれるのか
年輪は堅い凝縮 命の象徴

草野心平

効率を超えた時間を 大切にできる人生の1シーン。 多様なつながりをつかむ時。

新潟大学で学生をすること
自分の時計を自分で操ることので
きる人生唯一の期間。

夕日を眺め、地球がまるいことを知る。

理学部 自然環境科学科 4年
大木 亮子

佐渡に日が沈む、その瞬間を見ようと30
分程ぼんやり夕日を眺めていたことがあり
ます。赤々としていた夕日がもう見えなく
なり、「ああ、地球はまわっているんだなあ」

編入学してから現在までの感想

多様な教養科目、奥の深い専門科目
を卒業後も学びたい。

大学院自然科学研究科 博士前期課程 1年
金井 一美

第3年次編入学してきた私は、最初のこ
ろ卒業単位を取らねば！と思い、とても大
学の状況を見る余裕はありませんでした。
学部を卒業してから改めて教養科目を眺め
てみると、よくは知らないものの面白そう
な講義が多種多様に並んでいます。今考え
ればもう少しゆったりと、総合大学ならで
はの科目を聴くこともできたと思います。
何通りかの考え方ができる人間になるつも
りで大学へ来たのに、結局いままでの効率
第一の行動パターンをとってしまって、な
かなか習性は変わらないものだと少し自分
にがっかりしています。専門科目について
は、数年間学校に通っただけではその分野
のわずかな部分しか習得できないことが実
感できました。

ゆえに大学には卒業してからもいつでも
学べるように科目履修や夜間の講義など
が充実されることを期待します。そうな
れば地域の人々も総合大学としての新大
をより身近に感じてくれるのではないで
しょうか。

言論の自由、時間の自由、 これらを活かす自分づくりの場



と実感しました。

学生は時間に追
われることがあつ
てはならないと、
私は強く思いま
す。安易な出来合
いのもではない、
何が本物か見
極める力、自分の

オリジナルな考えやものの見方を時間を
かけて養うことが、学生の学生たる所以
だとすれば、学生時代はまさに自分の時
計を自分で操ることのできる人生唯一の
期間かもしれません。その期間を夕日や、
様々な美しいものに囲まれたここ新潟で
迎えられたことに、感謝しつつ「学者は北
からやってくる」という言葉にこの地を
重ねずにはられません。

総合大学としての
新潟大学の魅力



本人前列左から2番目

理想の大学～現代日本の大学事情～

新潟大学の最大の魅力は、自由にものが言える環境があることだ。

大学は社会の縮図。この欠点が魅力を引き立てる。

医学部 医学科 4年
長野 央希

現代日本の大学事情、ひいては日本の現在に目を向けると、非常に問題が山積していると言わざるを得ない。私が日々暮らして、気付く事を幾つか挙げてみたいと思う。

事無かれ主義（表面的な平和主義）

学生としても、人間としても正当な評価を得られない現状。

夢や広い視野を持ちにくい環境と雰囲気
権威者やエリートに対しては弱気な点

この様に見てみると、大学は社会の縮図に他ならないと言えよう。新潟大学も、この批判の対象からは逃れられない。しかし、良い面も多々ある。この様に欠点がある事は魅力の一つだと思う。完璧な物等存在しないし、存在したとしても、そんな物に魅力を感じるだろうか。欠点が美德を引き立てるのだ。では、最大の魅力とは何か。自由に物が言える環境がある点だろう。この環境の下で、問題を問題視する勇氣さえあれば、新大らしい魅力は安泰であろう。



本人 右から2番目

友と酒と
類は友を呼ぶ。

専門の世界へ入っても、専門の世界にとらわれない友に恵まれているのが、新大の魅力。

医学部 保健学科 2年
長谷川 晃

今年の4月から旭町キャンパスに移り、専門科目ばかりになった。毎日同じ顔ぶれとしか会わないので高校の時とあまり雰囲気は変わらない。

それでも、総合大学のメリットなのか、私は五十嵐キャンパスにもたくさんの他学部の友人に恵まれた。中には変な人もいる（「類は友を呼ぶ」か!?!）が、みんないろいろ頑張っている。パチスロに燃えたり、部活で頑張ったり、いろんな資格取得に挑戦したり…。私もこの夏は海外探検に行くので、バイトに燃えている。

ところで、私は酒に恐いほど弱いのに、なぜか私のまわりには酒の強い人が集まってくる。私もちょっとは強くなる様に頑張ってみたが、トイレはもちろん、病院にも近くなるので諦めた。友人達との酒のつき合いには苦勞している。軽々しく合コンにも出られない。合コンなんていう話自体がそんなにないというのも事実なんだけど。



本人後側

自由にものが言える自分づくり。
新潟大学の自由な環境を生かす。

Come on ! baby !!!

すべて女性の「味方学」は、幅が広い。

東洋医学・国際活動論・コミュニケーション能力・・・

医療技術短期大学部
専攻科学生一同

私たち助産学特別専攻科生は、看護婦・士の資格を持っている人が助産婦・士を目指して勉強しています。助産というとお産の介助というイメージが強いと思います。もちろんお産の介助、お産の後のケアもすごく重要なことです。でも私達は、思春期から更年期にわたり、セクシュアリティについてや受胎調節実地指導員になるための勉強もしています。講義も妊娠やお産についてのこと以外に、指圧の授業、東洋医学、国際活動論、学生のコミュニケーション能力を養う授業など幅広い分野の教科が選択できます。現在は大学病院で実際に妊婦さん、お母さん、赤ちゃんと関わっています。学生もやる気マンマンで、やさしく熱心な先生達と定期的に飲み会を行ったりして親睦を深めています。すべての女性の味方になれるよう頑張っていきたいです。



総合大学としての
新潟大学の魅力